

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

刈谷市

2 地域再生計画の名称

刈谷レストラーレ構想

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定の日から5年程度

4 地域再生計画の意義及び目標

刈谷市は、愛知県のほぼ中央に位置し、古くは城下町として商業、農業を中心に繁栄してきました。その後、大正末期にはトヨタ系企業の誘致を契機に中部内陸工業地帯の中核工業都市としての足がかりを得るとともに、高度経済成長とモータリゼーションの進展が相まって、自動車産業の集積地として飛躍的な発展を遂げ、市としても積極的な工業化施策を推進してきました。そして、こうした経過を経て、刈谷市は企業城下町として、多くの労働者が集い、暮らす街としての顔を形成することになりました。

こうした中、近年の交通体系の発達とともにレジャーや観光、そして生活圏は広域化をしています。人々は、憩いや非日常を求めて出かけて行きますが、身近な場所にも余暇を過ごすための「元気を回復する」、「癒す」(ラテン語でレストラーレ)憩いのスポットがあれば・・・、そんな考えから、市の北と南のエリアにそれぞれ、「休日を過ごす憩いの空間」を創りあげ、勤労者と地域との交流を図り、余暇を過ごす場として、市民はもとより、市外の人たちも集う「ふれあいの場」を創出していきたいと考えています。

市の中央部にはハイテクノロジーを駆使した自動車関連産業の工場が並び、活気に満ちあふれています。一方、市北部の丘陵地には、国の天然記念物に指定されたカキツバタ群落で有名な小堤西池や緑豊かな洲原公園などがあり、素晴らしい”自然環境”も守られています。

こうした自然が残る本市の北部地域において、現在、第2東名高速道路・刈谷ハイウェイオアシス(岩ヶ池公園)の整備が進められています。ハイウェイオアシスは、公園と高速道路のパーキングエリアを隣り合わせて、一般道路や高速道路からお互いに行き来できるように整備するものです。

平成16年12月にオープン予定の刈谷ハイウェイオアシスは、民設民営による運営が予定されており、民間活力による魅力ある取り組みが期待されています。

『自然とふれあえる』

『たくさんの出会いがある』

『思いっきり遊べる』

をコンセプトに、家族みんなで楽しめる遊びの空間を演出していきたいと考えています。

こうした中、地域再生計画として掲げる「刈谷レストラーレ構想」は、従来のハイウェイオアシスはその区域内のみをエリアとした活動を中心に考えられているのに対し、本計画は周辺地域を一体としてとらえ、オアシスを基点とした刈谷北部全体を対象にした様々なメニューを提供することを特徴としています。こうしたメニューの提供は、ハイウェイオアシスの「たまり」という機能を有効に活用し、高速道路利用者も周辺地域へも足を伸ばすことにつながり、オアシスと周辺地域が一体となった「活力」と「魅力」ある地域の再生が図られます。そしてオアシスのメニューと周辺地域のメニューの相乗効果によりさらに刈谷市への来訪者が増加することが期待され、交流エリアの広域化とともに地域の活性化が図られます。

具体的には、平成12年度に策定した「刈谷市観光推進基本計画」にもとづき、オアシス周辺を自然の博物館「刈谷エコミュージアム」と位置付け、地域の特徴をふまえた自然・風景・公園等の自然環境と文化財、人が生み出す創造性を活用した散策やサイクリングを楽しみながら地域全体の自然がまるごと体験できるメニューを提供していきます。

また、民設民営によるハイウェイオアシスは、地域における新たな雇用の創出にもつながり、子どもからお年よりまで元気な地域を生み出す様々な相乗効果を期待するものです。さらに将来的には、スマートICの活用も視野に入れて検討を進めていきたいと考えています。

一方、本市の南部においては、昭和初期から70年余りの間、依佐美の送信施設である高さ250mにもおよぶ8基の鉄塔があり、その区域はイーズメント区域¹として市民の心の風景として今も心に残っています。

この地区は、1994年(平成6年)に米軍からの送信施設の返還を受け、1997年(平成9年)の鉄塔の撤去に併せ、跡地の土地利用についてさまざまな検討を重ねてきました。その結果、市街化調整区域内の既存宅地ではありますが、都市として貴重な樹林が残されている場所であるため、スプロール化を未然に防ぐとともに、現状の農地を保全活用しつつ、将来の広域的土地利用の要と位置付け、施設の跡地の一部を都市的開発ではなく公園整備を推進する事としました。

具体的には、刈谷市都市計画マスタープランにもとづき、新たなレクリエーション拠点として、「花・緑・水」、「文化・歴史」、「余暇」をキーワードとした魅力あるランドスケープ空間「刈谷フローラルガーデン」を創出し、うるおいのある景観演出、市民参加、産業遺産の保全と活用、民間活力の導入を図る中で、「憩いのまち空間」づくりを計画しています。

【意義】

この地域再生計画では、

ハイウェイオアシスは民設民営、フローラルガーデンにおいても民間活力を導入し、指定管理者制度を活用する中で、民間企業による企画、経営ノウハウ等を生かした先進的事業を期待するとともに、地域雇用の創出を実現する。

農業や商業、自然観察や観光といった複合的な視点での体験型エコミュージアムを

¹ イーズメント区域

イーズメント(easement)とは地役権(法律用語・他人の土地などを使用する権利)のことで、建築物その他工事等一切に制限が加わる。刈谷市におけるイーズメント区域とは、平成7年から8年にかけて解体された高さ250mの絶縁線式三角鉄塔8基にアンテナ線16条が展張され、また地線網としてアンテナ地下60cmの位置にアースマットが敷設されている区域を指し、そのほとんどは、民有財産を借り上げて米軍に提供してきたものである。

創造する。

オアシス周辺の「公の施設」についても指定管理者制度を取り入れ、民間企業のアイデアなどの発展的活用を図る。

高速道路利用者に広くPRし、広域的な利用を確保する。

高速道路の利用を拡大する。

税収を増大する。

人の集まる市場的な機能を強化し、今後増加が見込まれる定年退職後の帰農者や、多くの農家が参加し季節の果物、野菜の産直を市が積極的に支援し、地元のみならず近郊都市からの購入者を増やすことにより、農業の振興を図る。

自然環境や生態系の保全に努め、自然観察ができるモデル地区を創出する。

南部において、花と緑のまちづくりのために、美・食・遊を楽しむ集客施設を導入する。

を検討していきます。そしてこれらのプロジェクトを実現することにより、北部地域における「自然・風景・公園などの自然環境」と、南部地区における「田園風景と郊外型住宅が調和した公園都市づくり」を行うことで、地域全体のうるおいとにぎわいを増加させ、集客性と収益性を向上させます。

【目標】

前述したとおり、刈谷ハイウェイオアシス及び刈谷フローラルガーデンは、支援措置212007を活用し、指定管理者による多彩な展開を検討していきますが、なお一層の相乗効果を期待して、緑を感じ、自然と触れ合う「刈谷エコミュージアム」を創造するために、以下のコンセプトにもとづき多彩なメニュー作りを検討していきます。

(1) 芸術創造のコース

岩ヶ池公園周辺の自然の中でアートを見学できるようにします。

(2) 「歴史の小径」の活用

刈谷北部における文化財をめぐるコースを設定した「歴史の小径」を活用し、散策・サイクリングにより回れるようにします。

(3) 自然観察コース

刈谷北部地区は小堤西池をはじめ、農業用のため池や河川等の昔からの生態系を維持している自然が多くあります。そこで、これらの自然を利用したり、河川や池を浄化させることによりビオトープ等を整備し、野鳥や昆虫、淡水魚などの観察ができる散策路を整備します。

(4) フルーツ街道コース

支援措置210001を活用し、市民農園で生産された農作物について、予期せぬ自家消費量を超える農作物を収穫した場合、エコミュージアム構想により実施予定である土日市場等での販売を検討するとともに、地元農家と協力して北部丘陵地で作られている果実や野菜等が購入できるコースを設定します。

(5) 森林浴コース

岩が池周辺の森を利用した森林浴が楽しめる散策コースの設置をします。

(6) 花いっぱいコース

市民による花の苗場を作るとともに、花畑の民間による栽培と市民参加による花畑を活用し、刈谷フローラルガーデン周辺の休耕田を利用して季節に応じた花畑を設け、来訪者の心を和ませる環境を整備します。

(7) 健康維持コース

8箇所の鉄塔跡地を利用し、多機能の施設整備を行います。

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1号：駐車場、休憩施設 | 5号：市民苗場、休憩施設、駐車場 |
| 2号：旧依佐美送信所記念館、
記念鉄塔、駐車場 | 6号：市民苗場、休憩施設、駐車場 |
| 3号：駐車場、休憩施設 | 7号：市民の広場 |
| 4号：駐車場、休憩施設 | 8号：休憩施設 |

8基の鉄塔は、市民の健康維持管理のための施設としての役割も位置付け、それぞれの鉄塔を道路で結ぶことで、刈谷フローラルガーデンを起点とした、散歩・サイクリングができる「緑の散歩道」として整備します。

これらのコースでは、支援措置 230007 の国土交通省の「観光活性化標識ガイドライン」を参考にして、自然を意識したデザインあるいは芸術的なデザインの標識の採用を検討していきたいと考えています。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

刈谷ハイウェイオアシスは民設民営、フローラルガーデンにおいても民間企業による運営を計画しており、その結果、新たに約300人の地域雇用が確保されると考えています。民間による運営は、従来の発想の殻を破った先進的な試みが期待されます。また、特にハイウェイオアシス周辺の「公の施設」においても、指定管理者制度を導入し、民間企業による管理運営を予定しており、本市北部エリアにおいては、民間企業によるニーズに沿ったサービス提供が図られるため、それぞれの民間企業の介入が相乗効果を伴って現れると考えています。

年間推定公園利用者（単位：人／年）

目的利用		立寄利用	合計
一般道路利用	高速道路利用		
92,140	33,360	752,019	877,519
73.4%	26.6%		

こうした民間企業の試みは、北部エリアにおける「自然・風景・公園などの自然環境づくり」と、南部エリアにおける「田園風景が調和した公園都市づくり」につながり、南北に細長い市域において、2つの拠点となる「憩い」の空間を創造し、地域全体のうるおいとにぎわい、集客性と収益性を向上させます。市民の他に近隣及び高速道路利用者の集客が想定され、ハイウェイオアシスの施設全体としては初年度に430万人（うち岩ヶ池公園の推定利用者は約90万人）の来訪を、売り上げとしては年間で約40億円を見込んでおり、広域的な利用により地域経済の活性化が図られます。

北部において、農業や商業、自然観察や観光といった複合的な視点での体験型エコミュージアム、南部において、花と緑のまちづくりのために、美・食・遊を楽しむ集客施設を創造することで、

- 芸術創造に親しむ街づくり
- 歴史に親しむ街づくり
- 自然観察ができるモデル地区を創出する。

につながります。また、「歴史の小径」や「昆虫観察コース」を設置することにより、地元小学校の教材として利用でき、「ふるさと 刈谷」を意識づけることにもなります。

また、「歴史の小径」においては、現在、多方面で活躍している刈谷ふるさとガイドボランティア31名の活躍、カキツバタ群落においては、地元を中心とする「カキツバタを守る会」の活動など、より一層、ボランティアグループの活動が活性化することも期待される。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 210001 市民農園で生産された農作物の販売が可能な範囲の明確化
- 212007 都市公園施設管理の民間開放促進
- 230007 案内標識に関するガイドラインの策定

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

特になし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

特になし

別 紙 1

1 支援措置の番号及び名称

2 1 0 0 0 1 市民農園で生産された農作物の販売が可能な範囲の明確化

2 当該支援措置を受けようとする者

刈谷市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

今後増えるであろう団塊世代の定年退職者の農業従事希望者への対応策として、本市としては、遊休農地等を利用し、特定農地貸付法に基づく市民農園を整備し、より農業に近い形での野菜栽培・花づくり等を通じて高齢者の生きがいづくりを検討していきたいと考えています。

しかしながら、特定農地貸付法による市民農園は「営利を目的としない農作物の栽培」を規定しています。

そこで、「2 1 0 0 0 1 市民農園で生産された農作物の販売が可能な範囲の明確化」に基づき、今後整備していく予定である市民農園の利用者が、予期せぬ自家消費量を超える農作物を収穫した場合、エコミュージアム構想により実施予定である土日市場等で販売することにより、消費者である市民との交流や農業への理解・参加を促進し、高齢者の生きがいづくりとしての農業の推進を図るものです。

別 紙 2

1 支援措置の番号および名称

2 1 2 0 0 7 都市公園施設管理の民間開放促進

2 当該支援措置を受けようとするもの

刈谷市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取り組みの内容

平成16年12月に第1期のオープンを予定している刈谷ハイウェイオアシスは、「自然とふれあえる」、「たくさんの出会いがある」、「思いっきり遊べる」といったコンセプトの基づく素敵な公園を計画しています。

刈谷ハイウェイオアシスは、都市公園である岩ヶ池公園周辺の豊かな自然を活かした公園の整備を行うとともに、レストランやショップなどには民間企業の参画を得て、より多くの人々に利用していただける魅力的な空間づくりを考えています。

民間活力の導入の導入により

- 利用者ニーズに応えたサービスの提供・・・集客性・利益性の実現

行政主体の事業運営から、民間活力の導入による多様な展開、利用者ニーズにあったサービスの提供が可能になり、集客力が向上し、事業規模と収益性の拡大が期待できる。

- 地域、利用者、企業との調和・・・コミュニケーションスペースの実現

民活による、幅広く地域住民や広域のニーズを把握していくことで、高速道路利用者と地域住民、企業、行政間のコミュニティ・スペースとして期待できる。

- 明確な責任体制と着実な事業展開・・・地域活性化拠点の実現

参画企業を含めた施設テーマ設定によっては、地域産業の利益拡大にとどまらず、幅広くテーマの波及が期待できる。

これらのことから、ハイウェイオアシス利用者のニーズを的確に捉え、ニーズに対応した施設サービスの提供、民間企業の独創性、柔軟性を発揮するため、支援措置を活用して民設民営による運営を行っていきます。そして、その結果、300人ほどの雇用の創出が図られると考えています。

別 紙 3

1 支援措置の番号及び名称

2 3 0 0 0 7 案内標識に関するガイドラインの策定

2 当該支援措置を受けようとする者

刈谷市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

今回、新しく整備していく地域は、北部の「刈谷ハイウェイオアシス」、南部の「刈谷フーラルガーデン」とともに、市内はもとより市外からも多くの来訪者が見込まれています。

そこで、国が作成する「観光活性化標識ガイドライン」を踏まえ、刈谷エコミュージアム内の案内標識を自然を意識した景観に統一的に整備していきます。また、同時に計画している芸術創造のコースとの兼ね合いの中で、芸術的なデザインを有した案内標識の採用も検討していきます。